

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	堤 圭史郎
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。愛知文教大学・追手門学院大学・大阪樟蔭女子大学・金城学院大学・神戸女学院大学・四天王寺大学・佛教大学・龍谷大学非常勤講師、大阪市立大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、大阪市立大学において博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、一般社団法人社会調査協会より、第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究・生活困窮者支援モデルに関する研究・大都市都心のコミュニティ状況把握等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

〈論文〉

鯉坂学・丸山真央・上野淳子・加藤泰子・堤圭史郎, 2015, 「『都心回帰』時代の名古屋市都心部における地域コミュニティの現状—マンション住民を焦点として」同志社大学社会学部『評論・社会科学』113:1-106.

鯉坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎・徳田剛, 2014, 「『都心回帰』時代の東京都心部のマンション住民と地域生活—東京都中央区での調査を通じて」同志社大学社会学部『評論・社会科学』111:1-112.

鯉坂学・上野淳子・堤圭史郎・丸山真央, 2013, 「『都心回帰』時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民：札幌市、福岡市、名古屋市の比較（下）」同志社大学社会学部『評論・社会科学』106:1-69.

鯉坂学・上野淳子・堤圭史郎・丸山真央, 2013, 「『都心回帰』時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民：札幌市、福岡市、名古屋市の比較（上）」同志社大学社会学部『評論・社会科学』105:1-78.

堤圭史郎, 2013, 「多重債務世帯への社会的介入—『伴走型支援』を通じた当事者の主観的意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

内田龍史・堤圭史郎, 「社会的排除地域析出の試み—2010年国勢調査から」日本都市社会学会第33回大会, 静岡県立大学, 2015年9月.

妻木進吾・西田芳正・堤圭史郎・内田龍史, 「被差別部落の現在（1）—2010年国勢調査から見る大阪府の部落の実態」日本社会学会第86回大会, 神戸大学, 2014年11月.

内田龍史・西田芳正・斎藤直子・妻木進吾・堤圭史郎, 「被差別部落の現在（2）—部落青年の雇用・生活実態」日本社会学会第86回大会, 神戸大学, 2014年11月.

堤圭史郎, 「『都心回帰』時代の地域コミュニティの動態—福岡市におけるマンション住民と行政の対応」地域社会学会第38回大会, 立命館大学, 2013年5月.

内田龍史・西田芳正・妻木進吾・堤圭史郎, 「児童自立支援施設と社会的排除—ケース記録調査から」日本社会学会第86回大会, 慶應義塾大学, 2013年10月.

〈研究報告書等〉

特定非営利活動法人 抱樸, 2015, 『生活困窮者に対する就労訓練事業（社会的就労提供事業所）を支える伴走型支援体制、地域社会資源体制の仕組み作り、及び地域における相互多重型支援ネットワーク構築に関する調査・研究事業』厚生労働省平成 26 年度社会福祉推進事業報告書.（第 3 章を執筆）

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2014, 『若年生活困窮者に対する社会的就労提供事業』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書.（第 1 章第 1 節、第 2 章を執筆）

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2014, 『生活困窮者に対する生活自立を基盤とした就労準備のための伴走型支援事業の実施・運営、推進に関する調査研究事業報告書』厚生労働省平成 25 年度社会福祉推進事業報告書.（第 3 章第 1 節・第 2 節を執筆）

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2013, 『孤立状態にある若年困窮者に対して社会参加および生活自立・社会的自立・就労自立を促す総合的伴走型支援に関する研究事業報告書』厚生労働省平成 24 年度社会福祉推進事業報告書.（第 3 章、第 4 章第 1 節・第 2 節・第 3 節を執筆）

〈調査実習の事例報告〉

堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究- 福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89.

〈事典〉

一般社団法人社会調査協会編, 2013, 『社会調査事典』丸善出版.（「インフォーマントとアポイントメント」「現地資料の収集」の項を執筆）

〈書評〉

堤圭史郎, 2014, 「書評 町村敬志編著『都市空間に潜む排除と反抗の力』明石書店」『日本都市社会学会年報』32:198-201.

③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

Tsutsumi, Keishiro, “Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese Homeless Issue in Globalization,” ‘The 2nd International Conference on Locality and Humanities--Locality, Beyond the border of Space and Cognition,’ Pusan National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ- 排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房.（序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5 章「家族規範とホームレス- 扶助か桎梏か」（妻木進吾との共著）を執筆）

堤圭史郎, 2009, 「ホームレスの人々への類型的な理解と『孤立』のリアリティ- 『問題づくり』をめぐって」『ホームレスと社会』1: 50-57.

堤圭史郎, 2006, 「『善意』に支えられた『ホームレス支援』」『市大社会学』7:46-61.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（若手研究 B）『旧産炭地における定着・流出・還流—貧困・生活不安定層の移動経験と労働＝生活過程』、221 万円、2014～16 年度、研究代表者.
- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 B）『「都心回帰」時代の大都市都心における地域コミュニティの限界化と再生に関する研究』、2013～15 年度、研究分担者（研究代表者・鯉坂学・同志社大学）.
- ・ 文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）『生活困窮者支援組織を核とした参加包摂

型地域社会の形成過程』、2015～17年度、研究分担者（研究代表者：稲月正・北九州市立大学）。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、日本都市社会学会（企画委員・編集委員）、地域社会学会、西日本社会学会、ソシオロジ同人、貧困研究会

6. 担当授業科目

社会学 A・2 単位・1 年・前期	社会学 B・2 単位・1 年・後期
社会病理学・2 単位・2 年・前期	社会調査の設計・2 単位・2 年・後期
社会変動と社会問題・2 単位・3 年・後期	卒業論文・6 単位・4 年・通年
地域社会研究Ⅰ・1 単位・2 年・前期	地域社会研究Ⅱ・1 単位・2 年・後期
公共社会学研究Ⅰ・1 単位・3 年・前期	公共社会学研究Ⅱ・1 単位・3 年・後期
日本事情 B・留学生・前期（分担）	社会貢献論・2 単位・1 年・前期（分担）
地域問題研究・2 単位・大学院・後期	

7. 社会貢献活動

- ・大阪府同和問題解決のための実態把握検討プロジェクト有識者会議作業部会委員
- ・添田町立真木小学校学校関係者評価委員会・委員
- ・添田町子ども・子育て会議・会長
- ・田川市社会教育委員
- ・田川市生活困窮者自立支援協議会・会長
- ・特定非営利活動法人抱樸「地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業」（平成 27 年度社会福祉振興助成金事業（WAM））・委員
- ・福岡県課題把握検討委員会作業部会・委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立小倉南高等学校にて出前講義（2015 年 7 月 13 日。題目「まちに取材にでかけよう―課題発見力とは何か」）
- ・地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業報告会「就労困難要因を抱えた人々が総活躍できるソーシャルビジネスの可能性と相互多重型支援の地域づくりを考える」にてコーディネーター（2016 年 2 月 22 日。於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ）

9. 附属研究所の活動等

なし